

図書館《私の使い方》—— 小路 沙貴	30
ライブラリー・スケッチ 「自動貸出機」	
————— 今村麻衣子	31

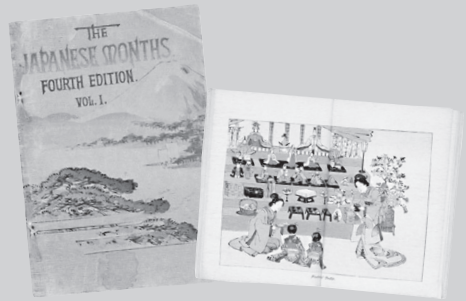
図書館利用案内

10月のピックアップコーナー 「海外と触れ合う戦国期日本」	
————— 稲垣 宏行	31
おこしやす、図書館へ 「言語学、はじめの一步 (17)」	
————— 入学 直哉、藤井 達也	32
マガジンラック (45) 「知っていますか? 図書館の雑誌」	
————— 栄 咲子	33
シリーズパソコン周辺機器 ③ 「SSD」	
————— 宮杉 浩	34

図書館員の文献紹介

名作再読、拾い読み (25) 『キリマンジャロの雪』 (“The snows of Kilimanjaro”)	
————— 小澤 文彦	35
日本の歴史36 『飛鳥の木簡：古代史の新たな解明』	
————— 稲垣 宏行	36
中世文学を彩った人たち (12) 後深草院二条 (続8) [二条の失踪編] ～日記文学『とはずがたり』の作者～	
————— 岡崎 嘉彦	37
Book Review Corner	38・39
ライブラリー・カレンダー 2013 (10月～12月)	
—————	40

● 本誌の表紙に使われた貴重書



Okada, Matsuo
The Japanese Months. 2 vols.
Tokyo, 1894

岡田松生 著
『日本の一年』 全2巻

本書は1月から12月までの日本人の生活を紹介したもので、12ヶ月を半年分ずつ2巻に分けて載せている。

第一巻の冒頭にある1月を取り上げると、「門松は冥土の旅の 一里塚 目度くもあり 目度くもなし」(At every door the Pine-trees stand; One mile-post more, to the spirit land; And as there's gladness, so there's sadness.) という一休禅師の有名な短歌で始まっている。その後、注連飾りにしめかざ橙やだいだい裏白、うらじろ讓葉などが付いていることを説明している。また、「おめでとう」の言葉で新年を祝い、子どもたちはカルタや双六で遊ぶことなど、正月の行事が極めて詳細に書かれている。

挿絵では門松が飾られた民家の前を人力車が通り、和服姿の女性が羽子板で遊ぶ場面が描かれ、三河漫才師や獅子舞の姿も見られる。

本書は著者が日本人であることから、他の月の生活や行事もきめ細かく記述されており、挿絵も一巻では上記のもの他に江戸時代の正月を描いた大名行列、亀戸の梅林、雛祭り、上野公園での花見の様子、子どもも手伝う田植え、端午の節句、日吉山王神社の祭り、二巻では精霊祭り、子どもの綱引き、月見、相撲、精米、菊の庭、餅つき、結婚式の様子などが描かれている。しかし、残念なことに、このような昔の日本の一年間の象徴的な絵を描いた絵師の名は記載されていない。

原寸 18.5×12.8cm

『文明開化期のちりめん本と浮世絵』
(2007年本学図書館刊行) より抜粋